

第 33 回 増田奈央子さん (久留米大学)

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第 33 回目は、増田奈央子さん (久留米大学) にご執筆いただきました。

イヤなものほど目に止まる？

私の専門は認知心理学です。特に、ネガティブ情動喚起時の注意と記憶の関心に興味があります。犯罪場面のようなネガティブ情動が喚起される場面は、そうでない場面に比べてよく覚えていることが分かっています。ではなぜよく覚えているのか。その背景要因のひとつとして、ヒトはネガティブ情動を喚起させる対象に注意が向きやすいからだといわれています。つまり対象への注意が記憶成績向上を惹起させると考えられています。

これまでの研究において、注意の向きやすさと記憶の関係が示唆されています。そこで私は、注意(特に認知処理できる視野の範囲)と記憶成績の関係性について実験し、注意の働きから、記憶できる範囲などを推定することを目指し研究に取り組んでいます。

増田奈央子 (Naoko MASUDA) さん

【ご所属】 久留米大学比較文化研究所

【ご連絡先】 masuda@std.mii.kurume-u.ac.jp

【ホームページ】

【その他】 今年度の日本心理学会(久留米)でポスター発表(9/20(水)11:20~13:00 ポスター会場/大会議室「不快情動喚起時の有効視野の縮小」)を行います。お時間とご興味のある方は、ぜひご意見いただけたらと思います。また、スタッフとしても入りますので宜しくお願いします。